

2022年度第2回5月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2022年5月

2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催

3. 委員の出席 委員総数8名
返信総数8名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	白幡冬彦
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子

4. 議 題

(1) 「9時までよろしいでしょうか？」

5月11日(水) 19:00~21:00

(2) その他

5. 議事内容

(1) 特別番組「9時までよろしいでしょうか？」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：宇都宮メディア・アーツ専門学校と連携し「放送・映像・音響科」の授業の一環として生放送番組をディレクターやミキサーなどパーソナリティーを除く役目を全て学生で放送しているという独特な番組。

各委員からは、

- 学生目線での時間が流れており、日常の何気ない状況を共有しながら、学生が番組に関わっていることで活気が生まれている感じが伝わってきた。リスナーをどこに設定しているのか少しわかりにくい。
- 授業の一環であるが、学生が公の放送で企画運営することは素晴らしい。若手の出演者と学生で自由な企画・運営を行っており、自由気ままなトークは気軽に楽しく聞くことができた。リスナーが明るく楽しい気分になれる番組。
- 授業の一環として学生に企画運営を経験してもらうことは、放送関係者の人材育成確保の観点からも放送会社として必要。ただし公共放送として番組の企画・運営全般を学生に委ねてもよいのか。番組内容は内輪だけで受けるようなトークが多く、出演者同士が楽しんでいるだけのように聞こえる
- 若い人達の仲間内だけの笑いが多く、時間をかけている割にはトークの掛け合いは浅い。ただし若者のテンポで明るい語り口、言葉の歯切れは素人臭いが、聞き取りやすかった。学生が中心となって従来の形に囚われない企画・運営を目指す趣向はユニークな放送だった。
- 専門学校の学生を中心にラジオ番組を制作し、放送することは良い経験になり、素晴らしいと思うが、初めて聴く人にとっては、内輪話の延長でグダグダ感が否めない部分もあったと感じた。
- 学生の授業の一環である点を差し引いても、内容があまりに薄く、聴き続けるのが苦痛だった。学生が構成を真剣かつ丁寧に考えるなどの下準備が必要なのではないか。若者が路上に座り込んでうるさく会話しているようで何を話しているか理解できなかった。リスナーが聞くに値するレベルまで引き上げる指導が必要なのではないか。公共放送とはこんなものと勘違いさせてしまっては教育的にも問題。

- 番組内容はただの学内の放送だと感じた。公共放送とするならば不特定多数の聴き手のことを考えた編成が必要。学生が全面的に運営することで、従来の形に囚われない企画や放送を目指すコンセプトを活かすためにも、しっかりと案を練ること、リスナーを忘れないことは前提条件とすべき。
- 手作り感のある番組。若い世代に向けて、たわいもない会話を身近に感じてラジオを聴くきっかけになのではないかと。一方、笑い声が多く聞き取りづらかった。ターゲットが明確で学生の実践の場を提供するという取り組みは素晴らしい。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2022年6月12日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2022年6月13日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2022年6月10日～)

以上